

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791600010		
法人名	有限会社MAJUN		
事業所名	グループホーム福ら舎		
所在地	沖縄県国頭郡恩納村字恩納6332番地		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JigyvosvCd=4791600010-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、緑豊かで閑静な地域に立地し、近隣には村総合福祉保健センターや、協力医療機関が隣接している。建物は彩光の良いバリアフリー住宅でADL(日常生活動作)が低下しても職員の見守りの負担が大きくなりやすいように配慮されている。利用者一人ひとりの希望に沿った対応を心がけており、施設構内での日光浴をしながらの御茶会を中心に、施設郊外のへの個別散歩や、公民館での地域祭りや恩納村祭り、近隣保育園との交流会、福祉祭りへも参加し、利用者様の近隣とのふれあいの機会を持つことで入居者様も喜ばれている。看護師の配置があり、隣接する協力医療機関との連携も取れており、ターミナルケアや予防接種等に関しても隣接医療機関より医師が来所し、利用者の医療に関する身体的な負担の軽減や、終末期を迎える家族の精神的な負担軽減も図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の高齢化・重度化に伴い理念の見直しの必要性について職員全体で検討し、「地域の中で関わりを持ちながら、笑顔あふれる日々の中でその人らしい生活を支援する」という開所時よりの理念は、入居者の状態が変化しても変わらずに目指していきたいとの一致した意見となり理念を継続している。夜間のベッド柵の使用について検討を重ね、入眠時の体動の状態観察やベッドサイドのクッション代わりに布団の配置等で安全を確保し改善した事例もある。誕生日個別ドライブで「映画を観たい」との入居者の思いを叶えたり、工作が好きな入居者へ共有空間に専用の工作スペースを設け、帆船の模型作りの支援を行う等、個別支援に力を入れている。以前に看取りを支援した経験を基に、「重度化・看取りに関する医療連携の指針」を作成し入居時に説明している。看護職員の配置と隣接する診療所医師、地域関係者等と連携し、入居者や家族の思いに沿った終末期対応の体制が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のADL(日常生活動作)の低下や病状の悪化等があってもその時々の変化に合わせて理念の実現に向けて取り組んでいる。	入居者の状態の変化に伴い、理念の見直しの必要性について全職員で話し合いを重ねている。その結果、事業所の目指すもの、求められているものを再確認し、開所時からの理念の継続という結論に至っている。入居屋の笑顔あふれる生活実現の為に支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝散歩に出かけ、隣の診療所で開くのを待っている人たちと挨拶を交わしたり、小中学校の登校路に散歩に出て挨拶を交わしたりしている。	朝の挨拶や、隣の方からの野菜の差し入れ等日常的な交流がある。地域の公民館祭りや福祉祭りに入居者、職員で参加したり、事業所の行事に保育園児を招き交流している。管理者は今年度キャラバンメイトの資格を取得し、地域からの勉強会などの依頼があれば対応したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の相談や、見学に来所された方へ、その家族が抱える認知症に対する問題についてアドバイス等を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、認知症サポーター養成講座の話題が上がり、認知症啓蒙についての必要性について話が上がった。	運営推進会議は今年度2回開催されている。家族、行政職員、地域代表等が参加しているが、入居者の参加がない。入居者状況や活動報告、事故報告、外部評価結果報告等が行われている。	運営推進委員に入居者を加え、年6回の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	老老介護の入居者家族の入院に際して、福祉健康課や、民生委員と話し合いを持ち、今後の身元保証体制の確認を行った。	村の主催する福祉祭りで、入居者の作品展示、活動風景の写真展示、パンフレットの配布を行っている。行政職員へ事業所の実情を報告している。地域包括支援センターと連携し、地域の困難事例の対応について話し合っている。事業所は行政からの多様な意見を望んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員と会議を重ね、ベッド柵を外しベッドの横にビニール袋に入れた布団を置いて対応している。	「身体拘束、行動制限をしない」ことを契約書に明示し家族に説明している。夜間の転落防止の為にベッド柵の使用について同意書をとる等所定の手続きの基実施していたが、安全を確保し柵を外した事例もある。玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待の定義やその防止策について学んでいる。		

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護と成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書並びに重要事項説明書を必ず読み合わせ、理解を得た上で契約いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱「希望の声」を設置しているが一度も投書は見られないものの、家族来所時には職員が直接家族とのコミュニケーションの中で要望をくみ取り、実践している。	入居者からは日頃から意見を聞くようにしており、食事や買い物についての意見が聞かれる。家族へ毎月入居者の状況報告をしており、その際家族意見の把握に努めている。介護相談員を受け入れており、一部入居者の「臭い」について職員間で話し合い、水分摂取等の健康管理に向けたアプローチがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にミーティングを行い、利用者の処遇等のみならず、業務の改善等に必要意見をくみ取り、実際の業務改善につなげている。	月に1回ミーティングを行い職員意見を把握している。検食当番を決め美味しい食事の提供に努めている。職員負担の軽減に向け、勤務体制の見直しやパート職員を採用する等職員の意見を事業所運営委に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に応じての昇給等を行っている。また、国家資格に対して十分な資格手当を提示している。職員の資格取得研修のため、シフトを優遇している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や講演会等に対し積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟し、情報交換や連絡会主催の研修会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心に、本人のニーズの把握を行い、なじみの関係作りの一助としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や本人に対する気持ちを理解し、家族との関係づくりの一助としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	試験的な入所も視野に入れた説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に必要な作業(掃除・洗濯・)に関してはいつも利用者と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは積極的な来所を声掛けし、ときには電話にて会話を交わし、利用者様への支援の協力を得ている。利用者と直接電話にてコミュニケーションをとってもらっている。1日に2~3回夫の面会があり、状態報告や意見交換、ねぎらいの声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・本人の要望により、週末等自宅へ一時帰宅をされる入居者様がいる。カジマヤ一祝いを施設で行い、たくさんの家族や親戚の来所があり、懐かしい顔ぶれに囲まれながら祝った。	宗教を持つ入居者のもとへ教会関係者や友人が訪ねて来る時は歓迎している。友人、知人が事業所を訪れた時は写真を撮り部屋に飾っている。入居者が昔住んでいた場所をドライブする等馴染みの場所を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみは、馴染みの利用者同士が行い、手分けし、協力し合う場面が見られた。		

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設入院となった利用者の下へも職員が時折顔を出し、声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でも、それまでの生活歴や家族から聞いた「本人の性格」「癖」等を把握し、以降の把握の一助としている。「映画を観たい」という本人の希望をかなえるために、職員を調整し誕生日個別ドライブにて対応した。	職員は日頃のケアの中で入居者の思いを聞くようにしている。甘い物好きな入居者のためにケーキを食べに出かけたり、毎日新聞を読み選挙に興味のある入居者の投票に付き添う等の支援を行っている。工作が好きで部屋に閉じこもりがちな入居者へ共有スペースに工作専用の机を設け帆船模型造りを支援することで他者との交流が持てるようになった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お金の心配をいつもしている入居者様について、昔本人が経験したエピソードが、現在の行動につながっている旨の話を本人から聞き取り、職員で共有し理解を深めた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族との連絡調整の中で本人の情報を確認することで職員の本人理解につながり、本人の意思に沿ったケアがなされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画を作成し、介護計画に上がらない細かな対応に関しても、現場とケアマネージャーが家族と調整を行い対応している。	サービス担当者会議において入居者、家族、職員の意見を聞き介護計画が作成されている。モニタリングはほぼ1カ月毎に行い、状態変化時や年に1回介護計画の見直しを行っている。生きがいのある生活を目標とし趣味活動等介護計画に反映し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングと連動した記録様式により、より細かな本人把握が出来るようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	工作の好きな入居者様に対して、施設費用にて帆船の組み立てキットを月々購入し職員のサポートにより少しずつ組み立て、本人の楽しみになっている。		

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店に買い物の際には他の買い物客や店員の方(まちゃーぐあーのおばさん)との会話を楽しむ場面があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時に、こまめに本人の状況を主治医へ報告している。	村内1診療所が利用前からの雇りつけ医で入所後も受診している。定期受診は家族が付き添い口頭や看護師による書面での情報提供をし、家族から報告を受けている。状態変化には職員が報告相談し受診や訪問診療している。又 リウマチや眼科の専門外来の治療も継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた対応を行っている。看護師不在の場合も24時間連絡が取れるようマニュアル化し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族本人主治医との連携をとり、短時間での治療や、治癒が見込めない場合での事業所の受け入れ体制等を確認しながら支援を行う方針である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でのターミナルケアの対応を行った際、村の職員、出身地域の民生委員、家族、入居前に住んでいた家の近隣の方との調整のノウハウを生かし、終末期を迎えた時の意向や対応方法について確認しあった。	重度化した場合や終末期のあり方については、重要事項説明書で入居者家族に説明している。重度化の入居者に看護職員、医師の連携で治療を継続している。本人・家族希望の在宅の看取りに関しても地域の関係者と事業所が連携し支援したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿った対応を行えるよう勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練のみならず、大規模地震、津波避難訓練を、県の広域訓練の日に合わせて行い、近隣の小中学生と避難した。	火災訓練は夜間想定を含め年2回の非難訓練を実施し、1回は消防署員も参加している。県広域訓練の日に合わせて「大規模地震・津波避難訓練」を全入居者を近隣の小中学校と連携し村避難所に避難している。2日間の台風停電には車からの送電でLEDや扇風機の使用で支障なく過ごしている。	災害訓練時に、地域住民や、区長、行政等と連携相談し、「災害時」の協力体制が出来るよう期待する。

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でのポータブルトイレを使った排泄の際は必ずブラインド・居室のドアを閉め、プライバシーに配慮している。	尊重とは入居者の「出来る事・やりたい事」を支援し「その人らしい生き方」を相互に理解し支援したいと考えている。入居者が指定する木の実を収穫したり新聞の購読・工作等の趣味が続けられる様支援し、声掛けや支援方法も誇りやプライバシーが保てるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中から、本人の希望を聞き出し、飲み物の選択や活動内容の決定を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間を本人の希望に時間に提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事やお出かけの際は、本人に着る物を選んでもらったり、時間をかけて化粧したりと準備を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることの支援をモットーに、野菜の下ごしらえ等は出来る入居者様様にお願いしている。又それに対して感謝の声掛けを行っている。普段の会話から「何が食べたいか」を確認している。	入居者と一緒に料理本を見ながら献立を選び買い物をしている。調理は三食事業所で職員と一緒に調理し、食事形態にも対応している。職員は日々の献立を工夫し合い味付けや彩りも豊かで、差し入れの季節の野菜を生かし職員も同席し食事を楽している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表や、形態(とろみ)を工夫し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシでのケアや、ガーゼを使った口腔ケア等、個々の状態や、能力に合わせた対応を行っている。		

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しリズムの把握に努め失敗を予防し自立心の確保に努めている。個々の能力や、時間帯におけるリスクを踏まえた排泄介助を行っている。	入居者の排泄パターンやサインを把握共有し支援している。自立や見守りの利用者は少ないがトイレでの座位の排泄に努めている。夜間もトイレやポータブルに誘導し自立支援に繋げている。又適切な排泄用具の使用法も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、水分摂取量の低下を予防、運動の励行により便秘を予防している。その上で便秘のある方に対しては主治医と相談し、便秘薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声かけは行うものの、最終決定は利用者自身であり、利用者の意思決定の下で対応している。拒否のある利用者も、浴室を温めたり、本人の納得のできる説明を行っている。少々嫌々ながら入っても、入浴後の甘茶にて気分のフォローを行っている。	週2・3回で同性介助を主体として入浴支援をしている。入浴を拒否する場合は活動や外出後の気分が解れている時にさり気なく誘導している。着替えは好みの服装を利用者が選び、整容しながら楽しい会話と飲み物で寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なく眠れるように就寝時居室にて付添を行ったりしている。ときには淋しさを訴え、不安になる利用者を職員の夜間待機するリビングのソファで休んでもらい安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルに沿って対応し、セッティングから与薬まで2重3重のチェックを行い安心して飲めるような声掛けを行ってから服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	桑の実がなる季節には、桑の実が利を楽しみながら敷地内散歩をしたり、工作の好きな入居者様に対して施設費用にて帆船の組み立てキットを月々購入し職員のサポートにより少しずつ組み立て、本人の楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別に外出を行っており、本人の希望に応じた外出先に出掛けている。隣の市まで買い物ドライブに出かけ、100円均一での買い物を楽しんでいる。	買い物や昔楽しんだ木の実の収穫など個別の外出支援をしている。誕生月には「何がしたいのか」を聞き「映画や外食」を家族と一緒に楽しみ、雨の続く日々はドライブしながら出身区の景色やオヤツの買い物を楽しんでいる。	

沖縄県(グループホーム 福ら舎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力時応じて普段から自己管理できる方への支援をはじめ、自己管理できない方に対しても、お出かけの際には職員管理の下お金の使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ニーズがあれば家族との調整の上対応する方針である。家族からの「声を聞かせてほしい」という電話に対して本人の電話利用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良いバリアフリー施設でリビングには共用のソファを設置し居心地の良い環境づくりに配慮している。季節に応じた壁飾りを採用し、利用者の活動の際の写真も併せて掲示し話題づくりの一助としている。	玄関には「生け花」を毎週飾り、リビングは入居者の制作した帆船の模型や共同作品・活動や行事の写真を展示し明るく広いリビングである。ガラス越しに広場や畑が広がり作業の様子や作物の生育など四季を楽しむ事ができる。浴室とトイレは玄関から離れた位置にありプライバシーを保つ事ができる。お気に入りの場所で寛げるようソファの向きや位置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に共用のソファを設置したり、出窓近くの小テーブルにて気のあった利用者が一緒に洗濯物たたみをしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境の再現の重要性について入居時に家族へ説明し、使い慣れたものや生活習慣上必要なものを準備してもらうようにしている。(家具や仏壇等)	居室はTV・水槽・仏壇やお気に入りの物を備え、家族や活動の写真を展示し車椅子利用者でも移動しやすい広さで寛げ楽しめる様配慮している。窓は広く自然の野山や畑が広がり光や風を楽しむ事ができる。又 入居者の状態に配慮して居室を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー施設の中、本人が理解しやすいような表示(シンボルマークではなく、「トイレ」「便所」「御手洗」の見やすい場所への表示等)を工夫している。		